

横浜市立大学後援会 NEWS LETTER

2016



YCUスクエア
(平成28年3月完成)

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 矢部 丈太郎

昭和36年商学部卒

平成28年7月に開催された理事会で新しく会長に選出されました矢部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。後援会は、在学生の保護者を会員として設立された組織であり、お子様の大学生活や研究活動を支援する事業を行っております。入学時に納めていただいた会費の用途については会員の意思が尊重・反映されるとともに、学生の学業生活に関して保護者と教員とが交流を図る組織であると認識しております。

保護者にとって最も関心があり、大学に期待しているのは、卒業後のお子様の就職ではないかと思います。どのような職業・会社を選ぶかは一生の中で最大の選択といえます。最適な選択ができるよう学生の就活に必要な就職情報を提供し、部活を充実させることに後援会の存在意義があると思います。お子様が充実した大学生活や学業、研究活動に取り組み、将来の飛躍の礎を築くことができるよう、保護者理事をはじめ会員の皆さまや大学関係者のご協力を得ながら、支援事業について適切な運用を図ってまいりたいと思っております。後援会の運営についてご意見やご要望がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局までお寄せください。



学 長 挨 拶

横浜市立大学 学長 窪田 吉信

矢部会長をはじめ横浜市立大学後援会の皆様方には、平素より、本学に対して大変ご支援をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちの横浜市立大学は、社会の急速な国際化と多様化が進む中、英語による発信力や、課題解決力などとともに、豊かな教養と専門力を備えたグローバルに通用する人材を育成しています。また国際都市横浜をフィールドにした様々な学びを充実させ、更に先進的な研究と診療を行い、その成果を世界に発信しております。

本学では、平成17年度に、公立大学法人として現在の国際総合科学部、医学部（医学科・看護学科）と大学院研究科の体制となりましたが、6年ごとに中期計画を立て教育・研究・地域貢献に取り組み、本年度は第2期中期計画の最終年度となります。現在、平成29年度から始まる第3期中期計画（平成34年度までの6年間）を策定中で、「横浜から世界へ」のもと、大学の特徴を伸ばすことや、グローバル化の推進、更なる教育と研究、医療の質の向上を進めようとしています。特に、これからの社会を見据え、新たな学部を設置と既存の学部の改組、また、在学生がより積極的に留学や海外研修ができるよう支援体制の強化や、海外から多くの留学生を受け入れる環境を整えることなどを重点目標としています。

保護者の皆様方や卒業生をはじめとする後援会の皆様方には、これまでも、学習活動やクラブ活動等への支援をはじめ、留学関係や就職関係の事業への支援等、幅広いご支援を賜ってまいりました。引き続き、学生生活の改善と、横浜市立大学の使命達成のため、より一層のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



学 部 長 挨 拶

国際総合科学部長（後援会常務理事） 中條 祐介

後援会会員の皆様におかれましては、本学の教育にお力添えいただき、心より感謝申し上げます。国際総合科学部では、平成24年度に実施した4学系12コースへの再編後の第1期生を昨年度社会に送り出すことができました。平成28年度も後期に突入し、学生たちの諸活動も本格化してくる時期となります。彼らの成果に大いに期待しているところです。

さて、平成27年度下期より平成28年度上期にかけてのトピックを紹介させていただきます。まず、平成28年1月に、Times Higher Educationより、本学が学生数が5,000人未満の部で、世界第16位にランキングされました。日本の大学の中では第2位でした。

また、3月末には金沢八景キャンパスの正門近くに、新しいシンボルとしてYCUスクエアがオープンしました。学生たちが自由に使えるスチューデントオフィスという小部屋が多数設けられています。

教育面では、“国際総合”という学部特性を活かし、学問分野を横断した人材育成プログラムを開始しました。英語で講義される科目のみで構成された「YCUグローバル・スタディーズ・プログラム」、経済のサービス化に対応した人材育成を目指した「サービス・ビジネス人材育成プログラム」、医療機関や介護の現場で経営改善を起こせる人材育成を目的とした「医療イノベーション経営管理人材育成プログラム」の3本を設けました。いずれも多くの学生の参加を得て、順調に滑り出すことができました。

また、後援会からの支援を受け、学生の国際体験もますます充実してきています。本学の特徴の一つであるグローバルという軸を一層強化し、グローバルなら横浜市大といわれるよう注力していきたいと思っています。

一方で、学生の地域貢献活動も活発化しており、地域社会と一体となり、地域活性化につながる取り組みが進んでいます。横浜市金沢産業振興センターで行われたPIAフェスタで「だるまさんが転んだ」によりギネス世界記録を達成したグループ、横浜三塔（県庁、横浜税関、横浜市開港記念会館）をモチーフに地元業者と「食べると願い事がかなうスイーツ」を開発したグループなどメディアにも取り上げられる活動もありました。このような活動を通じて、社会との関わり方、社会に対する貢献の方法を学んでほしいと思います。

以上のように、学生たちの活動は、グローバルとローカルの両面で深化しています。この動きを後援会会員の皆様にもご理解いただくとともに、さらに背中を押していただければ幸いです。



YCU TOPICS

📢 YCUと横浜の魅力を海外へ発信！ ～海外PR動画完成～

YCUと国際都市・横浜の魅力を海外にも発信するため、YCU初の「YCU海外PR動画」を作成しました。

HondaステップワゴンのCMや、東京都のPR動画（&TOKYO）を手がけるティム・ホワイト氏をディレクターに招き、制作しました。ぜひみなさんもご覧ください。

動画は
こちらから



チャンネル登録をお願いします！

YouTube <https://www.youtube.com/YokohamaCityUniv>

📢 YCUのトピックス 学生の活躍情報などを 配信中！

Facebook

YokohamaCityUniv

Twitter

YCU_koho

Instagram

yokohama_city_university



● ご支援のお願い

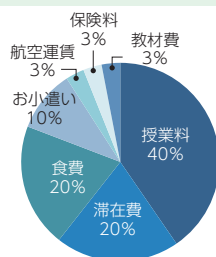
＼ 海外で頑張る学生をサポートしませんか？ ／

横浜市立大学では、今年4月から「YCU留学サポート奨学金」への寄附の募集を開始しました。
海外留学を希望する学生を経済的に支援するための奨学金です。

例えば、
北米に1学年留学する場合

約**300～500**万円

かかります。



本奨学金により
100万円／1人 支給

みなさまのお力をお貸しください！
より多くの学生にチャンス을!!



＼ 古本募金にご協力をお願いします！ ／

ご自宅でご不要になった書籍類（本・CD・DVD・ゲームソフト等）はありませんか？
ご提供いただくと、その買取金額が全額、大学に寄附されます。

平成27年度は約2万点の古本をご提供いただき、約35万円が大学に寄附されました。

宅配業者が全国どこへでもご自宅まで集荷に伺います（5冊以上で無料）。ぜひ年末の大掃除の際などにご協力をお願いします。



■お申し込み・お問い合わせ先

横浜市立大学 広報室 基金担当 電話：045-787-2447 メール：kifu@yokohama-cu.ac.jp

■webサイトからもお申し込みいただけます。

[YCUサポート募金](#) [YCU古本募金](#) で検索！

学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学生の学修・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約66万冊の図書、約1万4千タイトルの雑誌、約2万2千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学修・研究に取り組んでいます。センター内には400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学修スタイルをサポートしています。

学修サポートの一環として、学術情報センター職員による学修・研究のアドバイス（レファレンスサービス）のほか、学術情報センターの活用法を身に付けた学生ライブラリストッフによる相談も受け付けています。学生ライブラリストッフは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、学術情報センターをより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度を設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

■後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境が一層、充実しています。

平成27年度は、昨年度に引き続き有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。「学生選書」による寄贈図書は平成28年4月に企画展示も行い、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学習方法、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版』や『はじめてのひとり暮らし完全ガイド』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。



ゼミ活動

国際文化コース 4年 浜尾 優希

日本文化史ゼミは、その名の通り日本の文化や歴史にまつわるゼミです。松本郁代先生のご教授の下、日々研究に向かっています。2年次は本学学術情報センター所蔵の貴重書を調査し、月替わり展覧会をセッティングすることが主な活動です。3年次には個人で研究テーマを定め、論文の合評や輪読を行います。私たちの学年は地元企業とコラボレーションしての商品開発も同時並行で行い、また秋には市民講座を担当し、2年次に展示した古文書について市民の方々へ解説させていただくなど自らの理解を深めるにとどまらない活動を行いました。4年次にはこれまでの集大成ともいえる卒業論文の執筆と、一人ひとりがゼミに所属する3年間で日本の文化や歴史と真摯に向き合っています。

日頃研究対象として日本の文化や歴史と向き合う一方で、年に一度のゼミ旅行として日本各地を訪れ、史料や文献からでは決して学べない見聞をも深めています。今年は東北、杜の都仙台へと赴く予定です。実際に日本各地を訪れることで知識だけでなく新たな見方を手に入れるなど、時として研究のヒントにつながることもあります。そういった意味で後援会からのご支援は私たちの成長の後押しでもあり、そしてここに感謝を述べさせていただきたいと思います。

今後ともゼミ生一同、日々ゼミ活動に邁進していきます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

国内学会発表

物質システム科学専攻 博士後期課程 増子 貴子

平成27年3月26日（木）から29日（日）に千葉県日本大学理工学部船橋キャンパスにて行われた日本化学会第95春季年会に出席し、「混合溶媒中における歯車状両親媒性分子とそのナノキューブに対する溶媒分布の理論的研究」というタイトルで口頭発表を行いました。

日本化学会は、1878年に創立され、会員約3万名を擁するわが国最大の化学の学会です。化学・化学技術の知識を進展させ、人類の発展と地球生態系の維持とが共存できる社会の構築を目指しています。今回の春季年会は日本化学会会員のための由緒ある学会発表であり、化学分野の研究者が一堂に会する場所です。

私は実験科学者の方々と共同研究を行ってまいりましたので、まず、その実験を行ってくださっている学生が私の講演の直前の発表で実験結果を端的に分かりやすくまとめてくださいました。その講演を受けて、実験だけでは解明できない部分に焦点を絞り、計算機シミュレーションで明確な説明を与えた点を報告しました。実験と理論どちらの方からも多くの意見をいただくことができ、研究活動が続けていく上で大変励みになり、貴重な体験をすることができました。

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を用意しています。後援会の支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

平成28年度も、学生からの様々なニーズに応えるべく、新たにプログラムを増やしました。ゲーテ大学（平成29年度派遣開始）への交換留学のほか、カナダへの語学研修及びアイルランドへの語学研修を増設しています。

学生派遣プログラム		
	学生数 (予定)	プログラム名
語学研修 (英語)	6	ディーキン大学夏季語学研修 (オーストラリア)
	12	英国大学夏季語学研修 (サセックス大学、パース大学)
	(7)	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春季アカデミックスキル研修 (アメリカ)
	2	NEW! サイモンフリーザー大学夏季語学研修 (カナダ)
	2	NEW! プリティッシュ・コロンビア大学夏季語学研修 (カナダ)
	4	NEW! ダブリン・シティーユニバーシティ夏季語学研修 (アイルランド)
	(9)	ダブリン・シティーユニバーシティ春季語学研修 (アイルランド)
語学研修 (中国語)	(2)	上海師範大学春季語学研修 (中国)
語学研修 (フランス語)	4	ソルボンヌ言語文明講座 (フランス)
夏季講座	2	UCLA夏季講座 (アメリカ)
交換留学	1	上海師範大学 (中国)
	3	ウィーン大学 (オーストリア)
	2	仁川大校 (韓国)
	1	タマサート大学 (タイ)
	2	ベネチア大学 (イタリア)
	2	リヨン第3大学 (フランス)
	1	マレーシア科学大学 (マレーシア)
	(1)	NEW! ゲーテ大学 (ドイツ) ※H29年度派遣開始
長期派遣	6	ブリッジプログラム
	4	セメスター留学
	(6)	ディズニー・パレンシア国際カレッジプログラム

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

所属	学生数 (予定)	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	14	マレーシア (ペナン)
アカデミックコンソーシアム (持続可能な都市づくり共通教育プログラム(SUDP))	15	マレーシア (ペナン)

海外フィールドワーク支援プログラム		
所属	参加学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	(15)	台湾 (高雄)
	(10)	オーストリア(ウィーン)
国際文化コース	11	中国 (北京)
	(16)	フランス (パリ、ヴェルサイユ、リヨン)
地域政策コース	(15)	スウェーデン (ウプサラ、ストックホルム) ラトビア (リガ)
	18	ベトナム(ハロン、ハノイ)
グローバル協力 コース	18	カンボジア (シェムリアップ、プノンペン)
	12	ウガンダ (カンパラ、バララ、ムプロ)
	(20)	アメリカ (ニューヨーク)
	25	フィリピン (セブ)
経営学コース	18	ベトナム (ホーチミン)
	9	タイ (バンコク、サムットプラカーン県)
	17	ラオス (ビエンチャン) タイ (バンコク) アメリカ (ニューヨーク)
経済学コース	19	韓国 (ソウル、仁川、水源)
生命環境コース	16	メキシコ (メキシコシティ、テスココ、カンクン)
看護学科	3	ブラジル (南リオグランデ州)
	5	フィリピン (イロイロ)
物質システム科学専攻	30	台湾(台北)
生命医科学専攻	10	韓国 (光州、浦項)

海外インターンシップ

○春季 (H28.2～3月)

国・都市名	参加学生数	実習先
アメリカ・シアトル	1	Youth Theatre Northwest
インド・プネ	1	Door Step School
インド・プネ	1	Sustainability Initiatives
インド・プネ	1	Fidel Softech
韓国・ソウル	2	ベストフレンド韓国語学校
中国・上海	1	LT Commerce Consultants (Shanghai) Co.,Ltd.

○夏季 (H28.8～9月)

国・都市名	参加学生数	実習先
シンガポール	1	T.Ware
アメリカ・ロサンゼルス	1	Nippon ExpressTravel
アメリカ・ロサンゼルス	1	TakuyoCorporationLighthouse
オーストラリア・ブリスベン	1	Royal on thePark Hotel
オーストラリア・ブリスベン	1	HuckleberryAustralia
オーストラリア・ブリスベン	1	SouthernQueenslandTourism
オーストラリア・シドニー	1	(株) 日本旅行
インド・プネ	2	SustainabilityInitiatives
ベトナム・ハノイ	2	Mina
中国・上海	2	上海LT
韓国・ソウル	1	韓日フォーラム

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約30か国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会 (CIEE) が提供しています。

H28 (夏) 派遣国実績

アイスランド、スペイン、フィンランド、オーストラリア、ベトナム、カンボジア、カナダ

International

学生派遣プログラム

ブリティッシュ・コロンビア大学 (UBC) 夏季語学研修

地域政策コース 3年 石丸 直輝



私は、ディスカッションを中心とした授業で、実践的な英語を学べること、今年度から始まった新しいプログラムであることに魅力を感じ、ブリティッシュ・コロンビア大学での語学研修に参加を決めました。この研修では毎週、社会問題をテーマに現地の方にインタビューを行い、ディスカッションやプレゼンテーションを何度も行ったため、英語力だけでなく積極性や自ら発信する力が自然と身につきました。最初は海外という慣れない環境と難しいテーマに苦戦しましたが、分からないところは質問して一つ一つ解決することで次第に授業に慣れていきました。また、多様な文化的背景を持つ人々と接したことで、自分自身の世界観や価値観が変化したことを実感しています。

このように様々なスキルを習得できたことは、今後本格化する就職活動に向けて自信になりました。英語を学ぶだけでなく、異文化での生活を体験できることは大変貴重で時間がある学生の間しか経験できないことだと思います。私自身、サポートしていただいたことに大変感謝していますし、今後、他の学生が留学を実現できるよう継続してご支援いただければと思います。

上海師範大学交換留学

経済学コース 4年 正木 誠也



上海師範大学で過ごした一年はこれまでの人生において一番充実した一年でした。週五日間の中国語の授業と現地での学生生活と経済学の授業、また日本語を教える活動等多くのことを経験させていただくことが出来ました。特に、現地学生と一緒に授業を受け、また日本語教師のボランティアをすることに、語学力の面から不安を感じていましたが、一歩踏み出す勇氣と努力によってなんとかやり遂げることが出来ました。これらの活動を通して語学力だけでなく、積極的なコミュニケーションやチャレンジして努力を続けることの大切さを学びました。また、まだまだ経済成長が著しい中国でチャイナパワーや人々のバイタリティーを体感し、自分に対する危機感を覚えたと同時に、

さらに努力する必要性を感じました。今後は留学生活で学んだことを将来へと生かしていきたいです。応援してくださった方々、サポートしていただいた後援会の方々に本当にありがとうございました。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

経営学コース 3年 古野 佑実



私は、入学時にディズニー・バレンシア国際カレッジプログラムの存在を知り、実際に企業の中、とりわけサービス業で成功を収めるディズニーで実践的な経営に触れたい、海外で英語を使って働いてみたいと思い、参加を決めました。現地では、ウォルトディズニーワールドでキャストとして週5日で働く就業体験とあわせて、バレンシア大学での経営学の授業や課題があり、忙しい日々が続きました。英語での勤務も、世界各地から来るキャストやゲストのそれぞれのアクセントの違いに戸惑い、自信を失うこともしばしばありましたが、時間が経つにつれて次第に慣れていきました。今まで大学で学んできた経営理論が現場で活かされている場面を数多く目にすることで、学びへの

意欲がさらに高まりましたし、アメリカにいながら世界30ヶ国以上の人々と出会い、一緒に働くという貴重な経験をすることができました。ご支援いただき、ありがとうございました。

海外フィールドワーク支援プログラム

ウガンダフィールドワーク

グローバル協力コース 2年 篠原 和珠



途上国開発に興味があり、海外調査実習でアフリカのウガンダへ渡航し、大使館の訪問やJICAが行う活動などの視察を行いました。マケレレ大学では教育やHIV、ジェンダーについてお話を伺い研究材料にしたり、現地の学生とディスカッションをしたりして、勉強ができることの有り難さを痛感しました。また、ある村には農作物や木々の間にAIDSで亡くなった人の墓がたくさんあり、いかにAIDSが人々の生活に隣り合っているかを初めて理解しました。

村の人々の笑顔を見て、豊かさというのは人それぞれで、それを守っていける開発をしたいと心から思いました。現地の子どもたちと野球をしたり、AIDS遺児の支援団体を訪問したりしましたが、

ウガンダで見聞きたことは全て想像を超えるものばかりで、インフラが整備されていないとはどういうことか、途上国の暮らしとはどのようなものか、文献からは決して得られない貴重な経験ができました。ありがとうございました。

海外インターンシップ

実習先：Takuyo Corporation Lighthouse (アメリカ)

社会関係論コース 2年 岩谷 響子



自分の長所を発見できたのが一番の収穫です。今までは、内向的な自分に全く自信が持てず、それを克服する為にも実習に参加したのですが、期待は良い意味で裏切られました。理由は前述の通り。つまり、欠点があること自体は何ら憂慮すべき問題ではなく、自分にもちゃんと長所がある、と気づかされたのです。

また、コミュニケーションというものは、互いに理解しようという気持ちがあれば言語や文化など超えて成り立つのだと知りました。英語だから理解できない訳ではなく、日本語だから理解できる訳でもありませんでした。英語能力等を理由に海外へ行かないのは実に勿体無いことです。

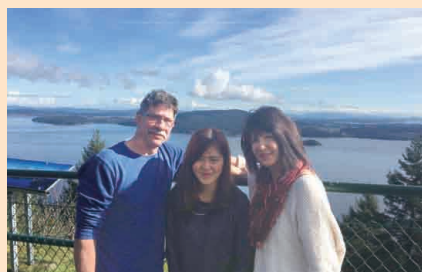
多少無理をしても、挑戦する事には大きな意味があります。時間は有限ですから、思い立ったら迷わず行動した方がいい。そしていざ海外へ行ったら、高望みしない事、毎日の発見を大事にする事。全てを意識的に楽しむ事が、経験という収穫を得る秘訣だと思いました。

このような貴重な経験を支援してくださった後援会の皆様をはじめ、協力をしてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

国際ボランティア

派遣国：カナダ

経営学コース 2年 藤原 佑華



大学1年の春、私は国際ボランティアについて初めて知りました。海外渡航歴がなかった私は、このプログラムに興味をわき、参加したことのある先輩方に体験談を聞き、参加を決意しました。参加するに至った理由は2つあります。英語で現地の人々とコミュニケーションをとりたかったから、そして旅行以外の目的で海外に行ってみたかったからです。初めての海外であったため少々不安はありましたが、それ以上に期待のほうが大きかったです。

私が訪れたカナダは雄大な自然が広がっており、日本並みに治安が良いのが印象的でした。ボランティアの活動先である古着のリサイクルショップでは、カナダ人と日常会話をしながら作業ができ、英語だけでなくボランティアとしての責任感も学べました。そしてホストファミリーには大変お世話になり、今でも連絡を取っています。ここでの経験は一生の思い出になると思います。

ご支援くださり、本当にありがとうございました。

アカデミックコンソーシアム[※]

2016年9月5日(月)～7日(水)の3日間にわたり、アカデミックコンソーシアムの総会および国際シンポジウムがマレーシア科学大学(ペナン)で開催されました。初日には、まちづくりユニットの学生による国際ワークショップや、マレーシア科学大学と市大が共同で実施した集中講義のグループ発表会が開かれ、市大生29名を含む計88名の日本・マレーシア・ベトナム・インドネシアの学生たちが多国間での交流を行いました。2日目の国際シンポジウムでは、窪田学長が基調講演者として登壇し横浜市の医療政策と市大の役割について講演を行いました。その後の分科会も含めてメンバー大学の学生・教員間の交流を深めることができました。

今後もアジアの大学間ネットワークを活かし、学生の交流活動を深めながら教育や研究を発展させていきます。



[※]アカデミックコンソーシアムは、横浜市立大学が事務局をつとめる都市の課題解決を目的とした大学間ネットワークで、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシアの大学が参加しています。

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

今年度は9月29日（木）、八景キャンパスシーガルホールにおいて、平成28年度伊藤雅俊奨学生並びに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催し、学生・教員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。



学長賞・学長奨励賞

横浜市立大学では本学の名誉を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対し、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生生活の活性化に貢献しています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

平成27年は国際英文医学誌『Pathology International』及び『The American Journal of Pathology』に論文掲載された医学部 医学科 6年（受賞当時）の入部康弘さんとヨーヨー世界選手権大会2A部門準優勝及び所属チームのAP部門優勝に貢献した国際総合科学部 国際総合科学科 1年（受賞当時）の高田柊さんが受賞されました。

学長奨励賞には個人の部として、日本学術振興会特別研究員DC1に採用され複数の国際的な学術誌に論文掲載された三上雅史さん（生命ナノシステム科学研究科）、BestBodyJapan横浜大会において優秀な成績を収め本学運動部のトレーニングの質向上に寄与した高瀬雅弘さん、在学中に公認会計士試験に合格した相原奈津美さん（ともに国際総合科学部）、の3名が受賞されました。

また、団体の部では、神奈川県大学サッカーリーグ優勝のサッカー部、東日本医科学生総合体育大会テニス競技優勝及び関東医科歯科リーグ春季団体戦 女子2部 優勝の医学部硬式庭球部女子、神奈川大学野球2部 秋季リーグ戦優勝及び3名が個人タイトルを獲得した硬式野球部、PIAフェスタにおいてギネス世界記録挑戦イベントを企画し達成した芦澤美智子ゼミナールPIAフェスタ地域貢献プロジェクトの4団体が受賞されました。



写真上は学長賞受賞者、下は学長奨励賞受賞者

保護者説明会



在学生保護者説明会を各キャンパス及び地方会場（札幌、仙台）で開催しました。開催にあたり後援会からは、保護者の方の昼食代や資料作成のための費用等を助成いただきました。

保護者の皆様方に、本学の教育・研究・学生支援等の取組みや、学生のキャンパスライフについてご理解いただくことを目的に開始した保護者説明会も、今年で5年目となりました。今年度は、昨年度好評をいただきました在学生の講演に加え、卒業生による講演も行い、大学での学びや生活をより多角的な視点からご紹介しました。また、新たな取組みとして、保護者の皆様方に本学の存在をより身近に感じていただけるよう、学生の研究活動や部活動に関するパネル展示を行いました。なお、金沢八景キャンパスでは同日に後援会の総会も開催し、出席された保護者の方々へ後援会の取組みをご紹介しました。

卒業生送別祝賀会



平成27年度は、国際総合科学部715名、八景キャンパス大学院111名がそれぞれ卒業・修了しました。国際総合科学部では4学系12コースとなった新しいカリキュラムのもとで学んだ学生が卒業を迎えました。学位記授与式後の祝賀会は6つの会場に分かれ多くの指導教員も加わり、大変賑やかに開催されました。

例年、八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部ではコース、大学院では専攻に分かれて学位記の授与式を行っております。後援会の助成により、学内の会場における祝賀会を実施しています。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇親会



専任教員及び平成28年度非常勤講師予定者を対象とした国際総合科学部FD研修会が平成28年3月11日（金）に実施されました。

今回は、中條国際総合科学部長により「平成28年度を迎えるにあたって」というテーマで、平成28年度の国際総合科学部の運営の変更点などの講演があり、質疑応答も行われ、当日は31名の教職員の参加がありました。

内容は、平成28年度から国際総合科学部で新たにスタートする「領域横断型プログラム」についての説明があり、複数の履修モデルが示され、次に、平成28年度から専門教養科目の一部でフオーター制の運用が開始されることに伴う履修上の注意事項、また大学主催の海外夏季語学研修に参加予定の学生対応について具体的な例があげられました。

最後に4月から施行される「障害者差別解消法」に関わる本学の対応についての説明があり、専任教員のみならず非常勤講師も含め意見交換を行ったことにより、本学で教育に従事する教員同士が共通認識を持つことができました。

また、FD研修会修了後は後援会の助成により懇親会を開催し、20名の教職員の参加があり、親睦を深めました。毎年後援会よりご支援をいただくことで、また授業以外における課題や要望等を聴取することにより、本学の学部教育のさらなる改善に役立てることができ、大変有意義な機会となりました。

経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。また、日本学生支援機構や給付型の各種団体奨学金の案内、手続きのサポートも行っています。

平成28年度は、4月に発生した熊本地震り災者に対し、災害見舞金の給付や緊急応急対応型の授業料減免措置をとるなど、学生が継続して就学できるよう経済的なサポートを行いました。

第66回浜大祭

平素より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解とご協力を深く感謝申し上げます。後援会の皆様のご支援のおかげで今年も円滑に準備を行うことができました。

今年度の浜大祭のテーマは「横市楽座」です。歴史用語である「楽市楽座」の1文字をもちり、本学の愛称である「横市(ヨコイチ)」と書き換えたものになっております。戦国時代に行われたこの経済政策は、枠組みを取り払い、皆が自由に商売できるようになるものでした。それを受け今回のテーマには、当学園祭期間中においては年齢や性別または出身や団体など、我々が普段感じている隔たりのようなものを取り払いたいという願いを込めました。そして来場してくださった皆様に自由かつ積極的に楽しんでいただき、戦国時代の城下町が賑わったように、様々な出展・企画がこれまで以上に盛り上がったと考えております。

結びになりますが、第66回浜大祭は10月28日(金)から30日(日)までの3日間、金沢キャンパスにおいて多くの方々にご来場いただき皆様の心に残るような学園祭とすることができました。

第66回浜大祭実行委員会委員長 村上 潤

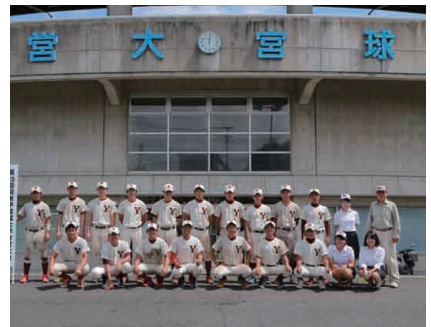


第65回関東甲信越大学体育大会

平成28年8月15日(月)～31日(水)に、関東甲信越地区の国公立大学13校が参加する「第65回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度は山梨大学が主管校を担当し、埼玉大学・都留文科大学・群馬大学を含めた4大学が当番校となり、運営を行いました。今大会では本学から15団体198名の学生が大会に参加し、硬式野球部、卓球部女子が3位入賞を果たすなど日頃の練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい成績を残すことができました。

本大会は大会規模が大きく、遠方で競技が行われる場合もあるため、後援会からの補助金を選手の遠征費等に充てさせていただいております。毎年頂いている体育会運動部全体に対しての援助により円滑な活動を行うことができます。心より感謝申し上げます。来年度は千葉大学が主管校となり、本学も当番校として運営に携わります。どうか今後もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 神馬 和樹



クラブ活動

●ヨット部

私たちヨット部は、八景島、葉山、江の島で活動しています。部員全員が大学からヨットを始めており、人数も少なく大変な部分もとても多いですが、皆で協力し切磋琢磨しながら春と秋の大会に向けて元気に活動しています。ヨットは風の力だけで進む乗り物で、その力をいかに最大限まで生かせるか、風の変化に対応する力、戦術等々、様々なスキルが要求されるスポーツです。海上での練習はもちろんですが、陸上での勉強もしっかりと行なっていかなければなりません。また時に海は荒れ狂い、ヨットが転覆してしまうことも多くあります。昨年度はレスキュー艇としてゴムボートを購入し、安全な練習を運営していくにあたって大きな役割を担っています。これには後援会からの支援金も充てられており、部員一同感謝しております。そしてOBや大学関係者の方々にも日頃の練習、夏季の自然体験実習など様々な面でご支援、ご協力をいただいております。それに応えられるよう、引き続き精一杯活動に取り組んでまいりますので、これからも応援よろしくお願いいたします。

ヨット部 主将 菊地 舜也



●男子バスケットボール部 / 女子バスケットボール部

男子の部は週4日で活動しており、女子の部は週3日活動しています。学業との両立を図りつつ、目標へと向けて日々努力を続けております。男女共に練習時間も限られおり、その中で質の高い練習ができるように部員同士で練習メニューやスケジュールを相談して決めております。

2016年度におきましては男子の部はその目標としていた関東大学バスケットボールリーグにおいて4部昇格、並びに神奈川リーグ1部に昇格いたしました。女子の部は関東大学女子バスケットボールリーグ4部において、惜しくも3部昇格には至りませんでした。来年度に向けて収穫のあるものとなりました。来年度はさらなる高い目標を掲げ、より一層チームの団結を深めて今後の試合に臨む予定です。

こうして快適に部活動が行えているのはひとえにOB・OG様方をはじめとした後援会の皆様方のご支援、ご協力があったることと、心より感謝申し上げます。来年度以降も、より優秀な結果を収めるために日々努力をして参りますので温かいご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



●茶道部

私たち茶道部は、浜大祭などに向けてお稽古を行っております。入学以前から茶道に触れてきた部員だけではなく、大学に入ってから始めた人も多いです。しかし、月に3回ほど先生からご指導をいただき、皆が日々のお稽古に励んで成長しています。昨年は、浜大祭でのお茶会だけでなく、金沢動物園にて梅見茶会を行いました。たくさんのお客様にお越しいただき、予想を上回る早さで用意していたお菓子が尽きてしまうほどでした。それまでのお稽古で積み重ねてきたものを活かして、いずれも良いお茶会にすることができました。

こうした日々のお稽古を行うためには、様々なお道具が必要になります。後援会の皆様から頂いた補助金で用意させていただいたお道具は、いつも大切にに使わせていただいております。私共だけでは新たなお道具を購入する余裕がないので、本当に助かっています。茶道部は多くの人に支えられて成り立っています。今後ともご支援を宜しくお願い致します。



茶道部 部長 野口 結里

●ピアノ会

20年以上の伝統をもつ私たちピアノ会には、何年もピアノを弾いてきたベテランから、大学からピアノを始めた人まで、様々な部員が所属しています。部室では、そんな部員たちが日々ピアノの腕を磨いています。さらに、部内有志によるピアノニカ隊の活動も盛んです。メインである浜大祭の発表以外にも、学内イベントや地元・金沢八景のお祭りから出演依頼も頂き、隊員一同練習に励んでおります。

現在部室にはアップライトピアノが3台置かれており、部員が自由に使用し練習しています。それぞれのピアノは50名を超える部員が日々の練習に使うため、調律やこまめな手入れが欠かせません。ほかにもホールを借りたり、新しい楽譜の購入などに、後援会の皆様や大学関係者の方々からのご支援を充てさせていただいております。手厚いご支援のおかげで、充実した活動を行えています。ありがとうございます。

今年の冬の定期演奏会は、12月27日に杉田劇場にて行います。私たちの活動の成果をご覧にいたいと思います。是非お越しくださいませ。



ピアノ会部長 内藤 友里恵

キャリア支援センターでは「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標とし、学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業セミナーなどさまざまなキャリア支援に関する講座やイベントに参加することができます。さらに単位認定も可能である国内・海外インターンシッププログラムでは、グローバルな視野を身に付けたり、企業や職業を深く理解するきっかけを得ることができます。平成27年度からは、自分自身と自分がおかれている世界を多角的に捉え、豊かなキャリアを築くために大切な視点や考え方を身につけるための講義であるキャリア形成実習(キャリアデザイン)を開講し、またUターン・Iターンを支援するため、全国10大学と「就職支援パートナーシップ制度」を締結するなど、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・就職相談	専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から、履歴書、エントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。	
就職支援講座・イベント	一年を通して、合同企業セミナーや就職ガイダンス、業界研究入門などの多彩なイベントを実施しています。また、公務員講座を学内で行うなど、就職支援講座も充実しています。各種イベントでは、多くのOB・OGの方をゲストとしてお招きしています。	
キャリア形成実習 (キャリアデザイン)	主に学部1年生を対象に、仕事や就職だけでなく、これからの人生を歩んでいくために必要な観点を得ることを目標にした講義です。OB・OGの方をスピーカーとして招き、学生時代の経験が社会に出てどのように活かされているか、社会に出るとはどういうことか、といったことをお話しいただく機会も設けています。	
インターンシップ	民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。 ※1年次後期以上対象 海外インターンシップについては、5ページ・7ページをご参照ください。	
キャリアサポーター制度	キャリアサポーターとは、在学生の就職支援を行うOB・OGの方です。学生が直接連絡をとり相談ができ、現在約1,800名の方に登録いただいています。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在学生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいています。	
キャリアメンター制度	就職が内定した学部4年生/修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生/修士1年生に対して、相談・指導する制度です。学生同士の交流を目的とした「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成いただいています。	
書籍・DSソフトの貸出し	キャリア、業界、職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出ししています。書籍やソフト購入の一部は、後援会より助成いただいています。	
YCU Portalによる 情報提供	本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約や求人票、インターンシップ情報の閲覧等オンライン上でキャリア支援を行います。	
就職支援 パートナーシップ制度	本学学生が下記全国10大学で求人票の閲覧や就職相談が受けられる制度です。 国際教養大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学	

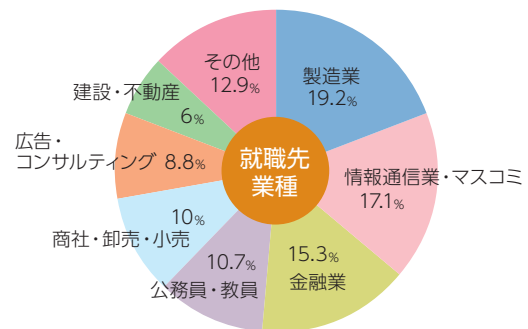
入学から卒業までの流れ

学年	1 年	2 年	3 年	4 年
支 援 内 容	新入生オリエンテーション			進路報告
	キャリア形成実習（キャリアデザイン）			
	キャリア面談		就職・進路相談	
		書籍・DS 貸出し		
		YCU Portal の活用		
		キャリア支援イベント		
			就職ガイダンス 合同企業セミナー キャリアメンター制度 キャリアサポーターとの集い OB・OG 訪問（キャリアサポーター制度） 就職支援パートナーシップ制度 公務員講座 国内・海外インターンシップ	

卒業生進路

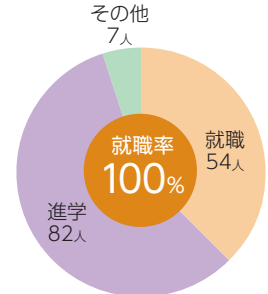
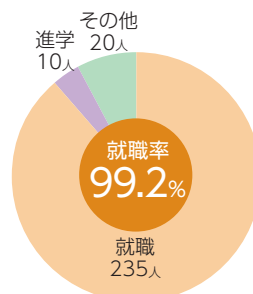
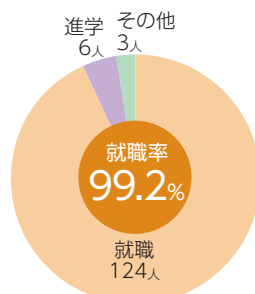
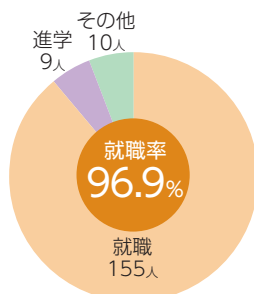
就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など、卒業後の進路は様々です。国際教養学系、国際都市学系、経営科学系の文系の学生は80%以上が就職を希望し、理学系では約6割の学生が進学しています。平成27年度卒業国際総合科学部全体の就職率は98.6%となり、全国平均を1.3ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開するさまざまな分野の民間企業への就職のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多く、就職後の状況は各企業から高い評価をいただいております。

■平成27年度国際総合科学部 卒業生業種別就職先(平成28年5月1日現在)



■平成27年度国際総合科学部 卒業生進路状況(平成28年5月1日現在)

国際教養学系				国際都市学系				経営科学系				理学系			
進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他
男	37	4	5	男	40	3	1	男	125	6	8	男	17	40	2
女	118	5	5	女	84	3	2	女	110	4	12	女	37	42	5
男女計	155	9	10	男女計	124	6	3	男女計	235	10	20	男女計	54	82	7



主な就職先

横浜銀行、横浜市役所、日産自動車株式会社、味の素株式会社、パナソニック株式会社、株式会社資生堂、グーグル株式会社、みずほフィナンシャルグループ、全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、日本放送協会、読売新聞社 他

主な進学先

横浜市立大学大学院、東京大学大学院、東京工業大学大学院、京都大学大学院、横浜国立大学大学院 他

平成27年度事業報告

1. 基本的な考え方

後援会は、会費を主たる資金として在学生の学習環境を整え、より充実した学生生活を送れるよう様々な助成・支援事業を行っております。大学の予算で賄うことが難しい、あるいは不十分な事業に補完的に使用することとしております。一般会計事業と特別会計事業からなっており、特別会計事業では、設備等の充実のために補助しております。

2. 一般会計事業

(1) 学生活動助成事業 (6,871,392円)

大学祭活動助成（浜大祭、医学部大学祭）、課外活動補助（運動部33、文化部34）、体育会活動助成（顧問引率費）、運動部連合会補助（関東甲信越体育大会補助、機関誌補助）、神奈川産学チャレンジプログラム参加補助



(2) 学習助成事業 (13,107,090円)

学生用図書・雑誌購入（八景・鶴見・舞岡）、卒論製本補助（ゼミ単位での卒論冊子）、ゼミ活動補助（ゼミ単位での教育活動）、学会発表補助（国内学会参加費、旅費の補助）、医学部新入生合宿研修ほか補助



(3) キャリア支援事業 (3,180,576円)

卒業生・内定者による就職支援（キャリアメンターとの集いなど3回）、キャリアコンサルタント委託事業、就職関連図書・ソフト購入（キャリア支援センター内用）、新聞・雑誌購入（進路情報収集用）



(4) 海外研修支援事業 (13,126,908円)

海外派遣大学公式プログラムへの助成（100名）、海外フィールドワーク支援プログラムへの助成（181名）、海外インター



ンシップへの助成（6名）、国際ボランティアへの助成（32名）

(5) 研究活動支援事業 (48,264円)

非常勤講師懇談会補助

(6) 福利厚生事業 (3,463,741円)

入学式関連補助、卒業祝賀会補助、学長賞・学長奨励賞補助（副賞、懇親会費用）、厚生支援（備品、消耗品）、保護者説明会開催補助（発送費、昼食等）



3. 特別会計事業 (4,153,874円)

教育環境整備（パラソル12本、パソコン25台）

4. 広報活動

会員向け広報紙「NEWS LETTER」（年1回）発行

5. 会議等

(1) 理事会

平成27年7月4日（土）15時から八景キャンパス・大会議室において開催され、役員の選任、平成26年度事業報告及び決算並びに平成27年度事業計画及び予算が原案どおり承認された。

(2) 総会

平成27年7月4日（土）16時から八景キャンパス・シーガルホールにおいて開催され、役員の選任、平成26年度事業報告及び決算並びに平成27年度事業計画及び予算が原案どおり承認された。新役員として、新入生保護者から、早川氏、中村氏が選任された。

総会終了後、シーガルホール内生協食堂において、保護者のほか、教員会員、卒業生会員など多数が参加して懇親会が開催された。

(3) 保護者説明会（大学との共催）

平成27年7月4日（土）午前、八景キャンパス・シーガルホールほかで大学との共催により行われた。（会員出席者数640名）

平成27年度決算・平成28年度予算

【一般会計】

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで（単位：円）

科目	27年度予算額	27年度決算額	増減	28年度予算額
【収入の部】				
会費収入	43,805,000	43,805,000	0	43,310,000
寄付金収入	2,900,000	2,275,290	△624,710	2,000,000
雑収入	3,000	4,186	1,186	3,000
当期収入合計(A)	46,708,000	46,084,476	△623,524	45,313,000
繰越収支差額	7,768,853	7,768,853	0	8,245,896
収入合計(B)	54,476,853	53,853,329	△623,524	53,558,896
【支出の部】			0	
事業費	48,532,000	42,587,545	△5,944,455	48,339,000
(助成・支援事業)				
学生活動助成費	7,010,000	6,871,392	△138,608	7,000,000
学習助成費	14,114,000	13,107,090	△1,006,910	14,114,000
キャリア支援費	3,448,000	3,180,576	△267,424	2,940,000
海外研修支援費	16,230,000	13,126,908	△3,103,092	17,175,000
研究活動支援費	70,000	48,264	△21,736	50,000
福利厚生費	4,060,000	3,463,741	△596,259	4,060,000
(広報事業)				
広報誌発行	3,000,000	2,429,718	△570,282	3,000,000
HPメンテナンス	600,000	359,856	△240,144	0
運営費	3,300,000	3,019,888	△280,112	3,000,000
会議費	400,000	279,733	△120,267	400,000
通信費	100,000	38,874	△61,126	100,000
事務局費	2,800,000	2,701,281	△98,719	2,500,000
特別会計に繰り出し				2,000,000
当期支出合計(C)	51,832,000	45,607,433	△6,224,567	53,339,000
当期収支差額(A)-(C)	△5,124,000	477,043	5,601,043	△8,026,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,644,853	8,245,896	5,601,043	219,896

【教育設備資金特別会計】

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで（単位：円）

科目	27年度予算額	27年度決算額	増減	28年度予算額
【収入の部】				
受取利息収入	5,000	4,209	△791	5,000
一般会計より繰り入れ				2,000,000
当期収入合計(A)	5,000	4,209	△791	2,005,000
繰越収支差額	31,695,212	31,695,212	0	27,545,547
収入合計(B)	31,700,212	31,699,421	△791	29,550,547
【支出の部】				
教育環境整備	4,350,000	4,153,874	△196,126	2,970,000
当期支出合計(C)	4,350,000	4,153,874	△196,126	2,970,000
当期収支差額(A)-(C)	△4,345,000	△4,149,665	195,335	△965,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	27,350,212	27,545,547	195,335	26,580,547

7月2日、後援会総会開催。新会長に矢部氏。

平成28年度の後援会総会は7月2日（土）16時より、八景キャンパスシーガルセンターホールで開催されました。役員として、矢部新会長（昭和36年本学商学部卒、元公正取引委員会事務総長）、前園新監事のほか、新入生保護者から、村田様・竹内様の2名が新たに選任されました。

平成29年度の後援会総会は、来年7月上旬の土曜日を予定しております。

開催期日が決まりましたら、ホームページでお知らせいたします。お葉書等でのご連絡は致しませんので、お手数ですがホームページでご確認くださいませよう、よろしくお願いいたします。

(<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/index.html>)



横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

(目的および事業)

第2条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は、第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員および役員等)

第4条 本会は、次の会員を持って構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上および医学研究科を除く）の保護者または学生本人（以下「1号会員」という）
- (2) 横浜市立大学の卒業生および教職員ならびに退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という）
- (3) 本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という）

第5条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理 事 30名以内
- (6) 幹 事 5名以内
- (7) 監 事 2名以内
- (8) 顧 問 若干名

(役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は、会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は、前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は、会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は、大学との連絡を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て、会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために、書記等の職員を置く。
2. 職員は、理事会の議を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任およびその他本会の運営に関し、必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる顧問を除く役員をもって構成する。

2. 会長は、必要と認めるとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画（案）、予算（案）、決算（案）および会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費等は、次のとおりとする。なお、会費の納入は入学時とし、既納の会費は返還しない。

- (1) 学部においては学生一人につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）
- (2) 大学院博士前期課程および博士後期過程においては院生一人につき30,000円（ただし、博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあつては20,000円とする）
- (3) 2号会員および3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。
2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

(施行期日)

1. 本会則は、平成26年7月5日から施行する。

以上

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp